

# 徹の笛

第十二回 福原徹演奏会



2022.

12.2 (金) 紀尾井小ホール

■ 第1回 14:30開演 ■ 第2回 19:00開演

主催=「徹の笛」実行委員会

後援=  公益財団法人日本伝統文化振興財団 / (有)邦楽ジャーナル / 邦楽の友社

JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

## ごあいさつ

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。

2001年から始めたこの「徹の笛」も、お蔭様で本日12回目を迎えることができました。

21年かけて、ようやく12回。

まだ12回か・・・という思いと、もう12回になったのかという思いが、錯綜しております。

今回初めてご来場くださった方もいらっしゃると思いますが、もう何度も来ているよ、という方もいらっしゃるかも知れません。

特に今年は、このような落ち着かない不安な状況の中をお越しいただきましたこと、ただただ感謝の言葉しかございません。

毎回「試行錯誤」の連続ですが、今回も共演者、スタッフの皆さんに、いろいろ無理をお願い致しました。

また、ご後援いただきました各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

私事で恐縮ですが、昨年還暦を迎えました。

非力ではございますが、今後ともご指導ご支援賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。



写真：大窪通治

### 福原 徹 (ふくはら・とおる / 邦楽囃子笛方)

1961年東京生まれ。六世福原百之助(四世寶山左衛門・人間国宝)に入門。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。邦楽囃子笛方として長唄・箏曲などの演奏会、日本舞踊・歌舞伎の舞台、放送、海外公演等で、篠笛・能管の古典演奏活動を続けると共に、笛を中心とした作曲に取り組む。

2001年第一回演奏会「徹の笛」で平成13年度文化庁芸術祭大賞(音楽部門)を受賞。東京藝術大学、洗足学園音楽大学、清泉女子大学、立命館大学等の非常勤講師を歴任。NHK文化センター(青山、浜松、名古屋、柏)講師。また、東京、浜松、彦根などで指導にあたり「百笛会」を主宰。長唄協会会員。創邦21同人。大田まちづくり芸術支援協会アドバイザー。

文部科学省検定 中学校音楽教科書「中学器楽 音楽のおくりもの」(教育出版) 著者。CD:「徹」「徹の笛」「lift off」ほか。



## 河東節 翁三番叟

- 浄瑠璃 十寸見東裕、十寸見東純
- 三味線 山彦青波、山彦 登
- 笛 福原 徹

(蔭囃子) 福原百之助、福原遊馬 / 福原百貴

————— 休憩 —————

## 京の夜 [六世福原百之助 作曲]

- 篠笛 福原 徹

## イサクとリベカ [福原徹 作曲]

- 能管 福原 徹

## 二調一管 [福原徹 作曲] 新作初演

I  
II  
III

- 笛 福原 徹
- 囃子 福原百之助、堅田喜三郎

## 河東節 翁三番叟

河東節の「翁三番叟」は、現在残っている近世邦楽の翁また三番叟物の中で、最も古い曲だと言われている。

河東節自体が、享保2年(1717)に誕生した江戸根生いの古い浄瑠璃であり、これはその中でも古い曲である。もっと掘り下げれば河東節以前の江戸浄瑠璃の大家、江戸半太夫の曲とも言われ、江戸音楽の源流を探るうえでも貴重な遺産と言える。

元々の「翁」や「三番叟」と違い、この河東節「翁三番叟」には囃子は入らない。鼓の手は三味線で表現するという、あくまで浄瑠璃の伴奏は三味線が担うという気概を感じさせる意欲作である。浄瑠璃も、謡いを意識してはいるがあくまで河東節の語り口であらんとしており、浄瑠璃語りの本懐が表れているように思われる。そうしたエネルギーは今日に至っても衰えることなく、河東節独特のスッパリとした潔さや爽快感と相俟って、聴く人、演奏する人を奮わせる。

今回は福原徹さんのご提案で、笛を入れて演奏することとなった。徹さんは、年の瀬のリサイタルに、来年に向けて祈り清めるようなお気持ちでこの曲を選ばれたのではないかと思う。心して演奏いたします。

[山彦青波]

昨年、同人として参加している「創邦21」で、笛一管だけの「さあらば鈴を参らせう」という作品を発表した。三番叟の「鈴の段」の唱歌をもとに創った小品だが、なかなか収まらないコロナ禍の中で、何かそらうものを吹きたいという気持ちがあった。

その「創邦21」で一緒にさせていただいている松永忠一郎(山彦青波)さんに、少し前から河東節の曲をいろいろ聞かせていただいで、その折にこの河東節の「翁三番叟」を改めて聞くこととなった。三番叟物なのだから、お囃子を入れて大きな編成で派手に演奏するのが当然かとも思うが、青波さんも書かれている通り、鼓の手が見事に三味線の手として消化・昇華されている。古人(必ずしも一人ではないかも知れないが)の挑戦・工夫の成果が、後の数多ある三番叟物の作品に繋がってゆくのだということに気づかされた。今回は、笛だけを入れる小編成で演奏する。また、幕明きと幕切れにだけ、蔭囃子を入れてもらうこととした。

[福原 徹]

## 京の夜

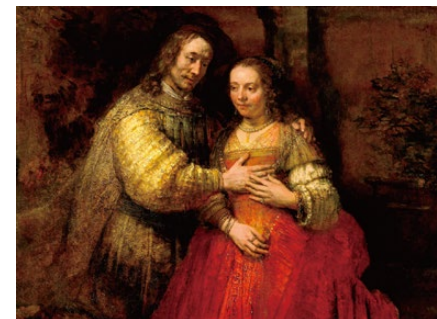
六世福原百之助(四世寶山左衛門、1922～2010)作曲。1970年NHK大河ドラマ「縦ノ木は残った」の挿入曲として作られた。主人公の伊達藩家老・原田甲斐が笛を吹くという設定。師は原田役の平幹二郎氏とこのとき初めてご一緒したとの事だが「私の吹く笛に合わせて、指を完璧に覚えて動かしておられたのには驚いた」そうである。

師の代表作といえば「樹々の密」「嵯峨野秋霖」「飛天」等があげられるだろうが、お弟子さん方が吹きたくなるような小品もたくさん作られた。この「京の夜」も、流派やキャリアを越えて多くの人に愛され続けている。

今年師の生誕百年。そして十三回忌でもある。

## イサクとリベカ

2003年3月初演。2002年11月から一年間、新作連続演奏会「徹の笛 in MUSICASA」を隔月で6回開催した。その中で、レンブラント・ファン・レイン(1606～1669)の絵画を題材とした能管独奏曲を毎回発表した。



その「6枚のレンブラント」のうち、たびたび再演しCD化されたのが、この「イサクとリベカ」である。思いがけず、平成31年1月の国立劇場初春歌舞伎公演「姫路城音菊礎石」の冒頭でも使っていただいた。

なお、このレンブラント晩年の名作(「ユダヤの花嫁」とも呼ばれる)は、アムステルダム国立美術館に展示されている。

## 二調一管

そもそも伝統芸能の世界では、笛は囃子の一員である。鼓や太鼓などと、いつも一緒に演奏している。笛方同士よりも、囃子方と過ごす時間のほうが圧倒的に長い。笛方は囃子(打楽器)の音を聴き、タイミングを計り、それに乗ったり、時には駆け引きしたりする。あるいは、囃子をちょっと俯瞰しているとか、少し斜めから眺めているような時もあるかも知れない。(実際には常に真横から見ているわけだが。)

囃子の手も笛方である自分が創る作品。これまで「九条羅生門」(笛、太鼓)、「白い月」(笛、小鼓)、「千の太陽、万の扉」(笛3、小鼓2、大鼓2)等を発表してきた。今回は囃子2名と笛。囃子は小鼓と太鼓を持ち替えて演奏する。

[福原 徹]



### 十寸見東裕 (ますみ とうゆう)

1967年、父松永鐵十郎の長男として生まれる。1984年より八世松永忠五郎師、杵屋直吉師に師事し長唄のプロとして活動を始める。

1994年より河東節を人間国宝 山彦節子師に師事。十寸見東裕の名を許され、河東節浄瑠璃方として活動を始める。NHKラジオ、テレビ、古典曲演奏会や舞踊の演奏を務める。

市川團十郎丈、海老蔵丈の「助六由縁江戸桜」に2004年より毎回出演。希少な河東節演奏家の育成にも力を注ぐ。

河東節十寸見会会員。一般財団法人古曲会評議員。



### 十寸見東純 (ますみ とうじゅん)

1980年 父、東音見亨に三味線の手ほどきを受ける。翌年東音永江倭子師に三味線を師事。88年、杵屋三七(現家元三左衛門)師に長唄を師事。東京藝術大学邦楽科卒業、同大学院修士課程修了。94年東音皆川健師に長唄を師事、長唄東音会同人となる。2005年江戸浄瑠璃河東節人間国宝山彦節子師に師事し、2006年 十寸見東純の名を許され古曲会に入会。NHK邦楽番組、松竹歌舞伎公演、海外公演にも多数出演。東京藝術大学教授、沖縄県立芸術大学非常勤講師、東京浅草組合長唄科専任講師、一般社団法人長唄協会会員、一般社団法人長唄東音会同人、一般財団法人古曲会会員。



### 山彦青波 (やまびこ せいは)

1969年東京生まれ。本名 岩本雅輝。3歳で家元九世松永鉄五郎師に入門、また現家元八世松永忠五郎師に師事、長唄三味線方(松永忠一郎)として活動を始め、現在にいたる。

平成6年 河東節人間国宝 山彦節子師に入門、平成8年 山彦青波の名を許され、河東節三味線方として活動を始める。「古曲会」「河東節を知る会」等に出演。

東京藝術大学音楽学部邦楽科非常勤講師。長唄松永同門会理事。一般社団法人長唄協会会員。一般社団法人古曲会会員。重要無形文化財「長唄」(総合認定)保持者。



### 山彦登 (やまびこ のぼる)

山田流箏曲山登派七代目家元 山登松和。山田流箏曲の芸域を深めるため、1989年より河東節三味線を山彦さわ子師、1995年より河東節浄瑠璃を山彦節子師に師事し、両師より山彦登の名を許される。山田流箏曲は4歳より祖母山登愛子に手ほどきを受け、以後、中能島欣一師、鳥居名美野師に師事する。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業、同大学院修士課程修了。日本伝統文化振興財団賞、文化庁芸術祭優秀賞、松尾芸能賞新人賞を受賞。山登会主宰、公益社団法人日本三曲協会常任理事、山田流箏曲協会理事、跡見学園中学校高等学校講師。



### 福原百之助 (ふくはら ひゃくのすけ)

1975年常磐津文字蔵(都一中)の長男として東京に生まれる。

91年祖父である福原流囃子方四世寶山左衛門(六代目福原百之助)に師事。93年福原流笛方、福原徹に師事。94年NHK学園高等学校を卒業。以後、福原流囃子方として演奏活動を行う。2006年11月 邦楽囃子福原流福原百之助派家元七代目福原百之助を襲名。演奏活動の他にもワークショップやレクチャーコンサートなどの企画や公演を行い、日本の伝統芸能である邦楽の普及に努めている。

社団法人長唄協会会員。邦楽囃子「若獅子会」同人。東京藝術大学非常勤講師。



### 堅田喜三郎 (かただ きさぶろう)

1975年生まれ東京都出身。青山学院大学経済学部卒。

幼少より祖父である4代目堅田喜三郎に手ほどきを受け、大学卒業後4代目堅田新十郎に師事。3代目堅田喜三久師のもとで本格的に演奏活動を始める。2004年5代目堅田喜三郎を襲名する。

2010年より会津東山にて喜調会を主催。参加する若獅子会では2016年中島勝祐創作賞、2017年第9回創造する伝統賞を受賞。

現在、舞踊公演、歌舞伎公演、NHKテレビ、ラジオ出演、海外公演等、様々な演奏活動を行なっている。

次回

「徹の笛」—第13回福原徹演奏会— 2023年6月29日(木) 国立劇場小劇場 開催予定

第12回福原徹演奏会「徹の笛」

●主催:「徹の笛」実行委員会 ●制作:日本伝統音楽振興会 黒河内茂 ●協力:加藤繁治 ●デザイン:長田彰デザイン室

<https://torunofue.wixsite.com/website-1>

